

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に沿ったケアをする様に心掛け職場にて理念の読み合わせをし、全職員で共有している。	利用者一人ひとりを大切に、最後までその人らしい生活ができるようにとの考えのもと、ケアマニュアルに副って6つの理念を作り月2回の職場会議開始時に全員で唱和している。職員の中に理念にそぐわない言動が見られた時には、管理者から「利用者様の尊厳は」と問いかけ、職員自ら振り返りの機会を持つようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高島城や施設の周辺に散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたり、会話出来る機会を多く作っている。	開設から1年経過したところで地域との関わりはこれからである。区長や高齢者クラブの会長に色々とお願いをしている段階である。児童や生徒の職場体験学習の受け入れ準備はできており、学校関係にも申し出もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員の方・介護相談員からの相談に対して、相談に乗ったり、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会にて、事業者の活動報告をしているが、意見あまり頂くことが出来ず、サービスに生かすところまでは出来ていない。	3ヶ月ごと、第一水曜日に開催している。メンバーは家族代表、区長、消防団長、民生委員、老人クラブ会長、市職員で構成されている。出席率は80～90%と高い。ホームからの利用状況や活動の報告を行っている。委員も不慣れであるため意見交換にまでは到っていないが運営上の色々な協力などをお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢者福祉課・広域連合・包括センターにお願いや相談に行き協力して頂いている。	利用代金の未払いの件や医療が必要となりホームで生活できなくなった方の次の居場所等を地域包括支援センターや市役所の担当者に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動を制止することなく、見守りし寄り添うケアに取り組んでいる。	ホームは複合施設の二階にあり交通量の多い道路に面しているため、階段出入り口などは施錠している。外出傾向のある方には職員が付き添って出かけている。マニュアルに基づいて振り返りをしたり、ホーム会議の中で学習をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	近隣の施設にて虐待があった事で自分達はどうかなんだろうと勉強会を開き、スタッフひとり一人の虐待に対する意見を聞き、利用者どう接していくかを考えた。「心に愛があれば虐待のないケアが出来る」と誓い合った。		

こころのひろばグループホーム・ばあばのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がいるし、制度についてもある程度理解しているが、個々の必要性の活用までは、支援出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族に時間を取って頂き丁寧に説明して、同意を得ている。看取りについてもしっかり説明して、今の気持ちを書面にて伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪の際、利用者のご様子などのお話をさせて頂き、その折に意見をお聞きしている。苦情箱を用意している。ご家族からの要望については、職場会・申し送りノートでの申し送りで、共有している。	ほとんどの利用者は自分の意見を言葉で伝えることができるが、直接伝えられない方については表情や仕草で判断している。家族の面会は週に1回位の方が多く、毎日見える方も数家族おられ、家族の要望などは面会時にお伺いしている。毎月担当者が手書きのお便りを書いて利用者一人ひとりの近況を家族にお伝えし、意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者による面接を3か月に1回行っている。個人的なこと、会社の運営に関する事の意見を話し合っている。	月2回の職場会議、月1回のホーム全体会議を開催し、提案や意見を出し合っている。職場全体の年間目標と個人の年間目標を出し合い、目標達成に向け努力している。管理者は定期的に職員と面接を行い、要望や改善点などを業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、多忙で職場会に3回に1度程の来所位。管理者が、面接の時に話し合っても解決できない内容を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の27年度の目標が、講習会や研修会の参加項目があるので、講習会・研修会の内容を回覧し、参加をよびかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会において、各事業所の取り組みや困って居る事等を聞き、サービス向上に取り組むことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際ご本人に今までの生活・好きなことなどを話して頂き、傾聴に努める。話の中から困って居る事を見つけ共感し、本人を知る事につとめる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご苦勞・ご本人の今までの生活の様子をゆっくりと聴き、理解するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時、本人にあった場所。特にご本人が自分のお家で暮らせる可能性がある場合は、小規模多機能型居宅介護施設の紹介・見学を進めて実行している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩と言う事を忘れずに、今までの人生上の経験話を聴いたり、食事の作り方を教えて頂いたり、出来る事を一緒にやらせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月の様子を担当者より、手紙にしてお伝えしています。ご家族からお返事を頂いたり、面会の回数が増えたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・お友達が来所された時には、居室にてゆっくり話が出来る様に環境に配慮している。利用者が一人暮らししていた自宅に、スタッフと一緒に掛ける事もしている。	半数近くの利用者には年、数回友人が訪ねてきており、居室でお茶を飲みながら話している。携帯電話を持っている方もおり、時々、電話をしている。家族とお墓参りに行く方もいる。友人あてに暑中見舞いのハガキを書く利用者もおり訪問調査時に一人の利用者から見せていただくことができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や得意なことが合う方同志、話が合う同志など、切っ掛け作りをスタッフが先行し、利用者同士の関わりを作っている。注意深く見守り、その後の関わりを考える。		

こころのひろばグループホーム・ばあばのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩されたり、入院などでの退居だった為、退去後の様子を聞くのみになっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中の会話や、イライラしている時に言われる言葉から、本人の希望・意向の把握に努めている。又普段の生活の中からどの様に暮らしていきたいのか？スタッフ全員で話し合いの場を作っている。	在宅時の様子や利用当初のアセスメントを大切にし、利用者主体の行動を見守っている。集団の中で言葉の少ない方には1対1で関われる時に意向を伺うようにしている。利用者のふと漏らした思いなどは介護記録に記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の際家族から、今までの生活趣味などの情報収集をし、その情報を元に利用者と話をして把握。実際に今まで暮らしていた家へ訪問・利用者とも一緒に訪問もする。これまでのケアマネジャーからもサービス利用の時の様子を聴取		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の「出来る・出来ない」を使い一人ひとりの生活を把握し、支援計画・個人マニュアルに利用している。心身状況は朝夕のバイタルチェックでいつもと違うなどの気づきも忘れない様に努めている。一日中を通し申し送りをしっかりしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の職場会の時に利用者担当の、本人の日常状況・困っている事の報告から、スタッフ全員で話し合い生活に反映。家族の面会の際支援の方法の説明をしたり意見を聞いたりしている。介護計画変更まで行っていない	担当制をとっており職員は1～3名の利用者を受け持っている。「できる・できない表」を用いて変化したことを担当者が記録し、スタッフ間で共有後、計画作成担当者が介護計画を作成している。モニタリングは職場会議で2週間ごとに行っている。アセスメントは変化のあった時に行っている。	現状をより把握するためにモニタリング回数を増やすことを期待したい。また、より介護の質の向上につながるようにアセスメントを定期的実施されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当日記録には、本人の話した内容暮らしの様子等記録している。介護記録の見直しに至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が定期受診に同行出来なかったり、突然の熱発など、受診に同行。日用品の買い物も利用者と同行したり、又地域での行事にも参加している。		

こころのひろばグループホーム・ばあばのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回地域の訪問美容の方による、髪の毛カット概ね全員。交流センターにてボランティアによる催し物に参加している。市民新聞を購読し、催し物に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本はご家族同行である、ご家族に日頃の健康状況を伝えて、受診して頂いている。ご家族つごうが悪い場合は、受診に同行しかかりつけ医から、アドバイスなど頂いている。	かかりつけ医への受診同行は基本的に家族が行っている。ほとんどの利用者は複合施設こころのひろば内にあるクリニックで受診している。看護師は常駐していないが近隣の訪問看護ステーションと24時間対応の契約をしており、健康チェックのため週2回の来訪を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、月に2回健康管理して頂いている。急変時対応は24時間、指示により医療機関につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、様子を見に伺って病院関係者と、コミュニケーションを取り情報を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針についてご家族に説明して、同意を頂いている。看取りについての職員の勉強が必要。	重度化した場合の指針に基づいて、利用契約時に本人や家族の意向を伺い同意書をいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを職員全員に周知・徹底を図っている。応急処置・蘇生術の研修はスタッフ全員は受けていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時連絡網完備。防災倉庫との提携している。避難訓練も1回実施、計画もある。	年2回防災訓練を計画している。昨年は複合施設こころのひろば全体の訓練に職員が参加した。ホーム入り口に利用者手作りの防災頭巾が一人ひとり用に掛けられている。頭巾の中に下着やオムツ等、最小限の必需品が詰められている。	具体的に行動できるように防災マニュアルを更に充実されることを期待したい。職員個々に机上シュミレーションをし、自分の行動をイメージすることと、その各自のイメージを出し合い全体の行動へと結びつけられることを期待したい。

こころのひろばグループホーム・ばあばのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームの理念でもある人生の先輩と言う事を頭に置き声掛け・トイレ介助・居室への訪問接し方などに注意している。	ホームとしての6つの基本理念の一つに「利用者様一人ひとりのプライドやプライバシーを守り個人を尊重します」と掲げ、実践に努めている。管理者が講師になり、ホーム全体会議の中で勉強会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをし、押し付けでなくやりたいことをやって頂く。入浴の前に入浴後の洋服選びも複数から選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中心は、時間やスタッフではなく、利用者である事を心がけているが、なかなか出来ないのが現状。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は基本的には、ご自分で選んでいる。季節・気候に合わせられない方や、自己決定の出来ない方は、スタッフと一緒に選ぶ。化粧をされている方への化粧落としの支援も忘れない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから食事の片づけに至るまで、利用者と共にやっている。一緒の場所で一緒に食事し会話も楽しんでいる。	すべての利用者が自分の出来ることで、食事作りに参加している。とろみ食の方、ペースト食の方がそれぞれ若干ずつおり、他の方は普通食を召し上がっている。法人本部に入っている栄養士が献立を作り、業者から毎食分の献立と食材が届けられている。ベランダにはミニトマトなどの夏野菜の鉢植えが並んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の前に嚥下体操を行い、食事は、水分から取るように促し、誤嚥には気を使っている。体重変化はご飯の量で調整している。水分1日合計1.5~2.0Lを目標に声掛けしている。水分補給と便秘予防の為に茶の寒天ゼリーをお茶に入れ摂取		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りし、出来ない方は入歯外し、うがいは自分でやって頂き、その他はスタッフが、介助している。		

こころのひろばグループホーム・ばあばのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックを行っている。個人の排泄パターンを知り尿意のない方は、定時誘導をしている。尿意のある方は、日中は布パンにし夜間トイレに起きて来られない方のみリハパン使用して、排泄の失敗で自信を失わない様になっている。	約半数の方は自立している。夜間のみオムツやリハビリパンツにしている方もいる。排泄チェック表で時間帯や排せつの有無を確認し、職員も時間を見計らい時々声がけをし、トイレへと誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時と15時のお茶の時に、お茶の寒天ゼリーを摂取して頂き、便秘傾向の方には、ゼリーにオリゴ糖をかけて様子を見ています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の多い時間帯に入浴時間が定まってしまうている。交流センターのこころの湯に行くこととても喜んで下さる。	職員の出勤数が多い午後の時間帯に入浴時間を組み込んでいる。最低週2回は入浴している。拒否する方にはホーム内を散歩しながら浴室に誘導している。見守りや一部介助を必要とする方がほとんどで、全介助の方はいない。複合施設1階の交流センターの温泉を時々利用し、気持ちが良いと利用者からも好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、夜間の睡眠に影響がない様希望のある方は、居室で休んで頂いている。寝付けない方、眠れない方には、一人ひとりの方法で、スタッフが寄り添います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方箋は、個人ファイルに挟みスタッフ全員が、見る事が出来る様にしている。3食の配薬時には、Wチェックをし、内服時は、飲み込み出来ているかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り・野菜・花づくり・漬物づくり等経験や知恵が発揮出来る様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩に出掛け地域の方々や挨拶を交わしたり、話が出来様支援している。散歩・ドライブ・ブドウ狩り・買い物・外食等積極的かつ個別対応している。	年間計画の中で季節毎の外出行事を計画している。毎週ドライブを企画し参加していただいている。個別には利用者と職員が1対1で近くの高島公園へ散歩することが多い。ホームのある複合施設裏の川沿いの道は、歩行者専用なので散歩に好都合で毎日利用している。	

こころのひろばグループホーム・ばあばのいえユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、スタッフがやっている。買い物の際は、自分でやって頂ける様支援している。力に応じて、財布のままの方や大きなお金のみを渡すなどと分けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は、自由に電話でのやり取りをしている。普段手紙のやり取りが出来なかったので、年賀状を家族や知人に出す支援をした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体的に落ち着いた色調にし利用者にとって落ち着いた空間になっている。玄関には、季節を感じられるものを置く様にとめている。ベランダに自由に出入りして、野菜や花に水をあげる事が出来き季節を感じられる。	リビングには三つのテーブルが適度な空間を保ちつつ整然と並んでおり、2~3人ずつで食事ができるようになっている。音に敏感な方がおられるため、全体に静かで落ち着いた雰囲気である。空調も適切に使用されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブルの配置に配慮し、仲の良い利用者同士がくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物・仏壇・お位牌・趣味の物・グループホームで製作した物などを置いて居心地良く暮らせるようにしている。	整理ダンス2台が備えつけてあり、衣類等を入れている方もいる。常に見て確認できるように衣装掛けを使っている方もいる。職員手作りの誕生日カードやメッセージカードが飾られている居室も見られた。自宅からお位牌を持ってこられている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂・など図柄によって、ここは何なのか判るようにしている。安全のため手すりの増設又物の配置に配慮している。		